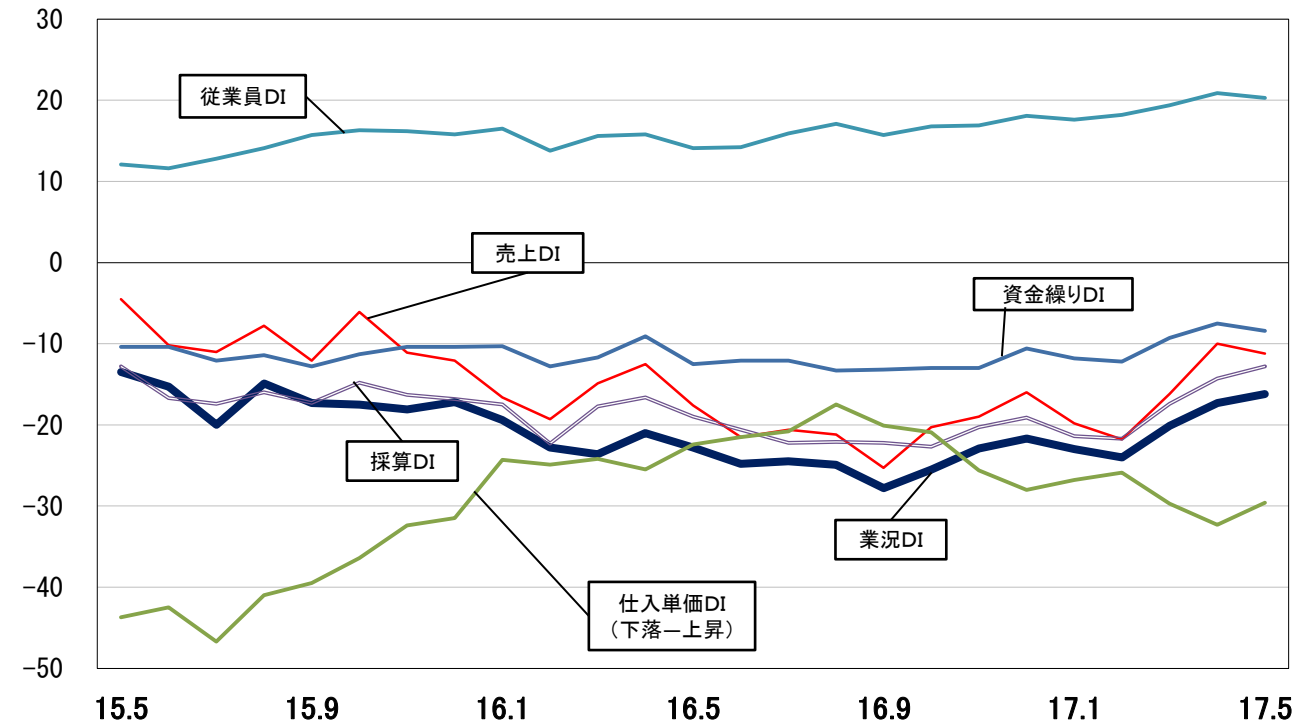


業況DIは、3カ月連続改善。先行きは懸念材料払拭できず、ほぼ横ばい

ポイント

- ▶ 5月の全産業合計の業況DIは、▲16.2と、前月から+1.1ポイントの改善。ただし、「悪化」から「不変」への変化が押し上げ要因となったことに留意が必要。インバウンドを含めゴールデンウィークの好調な観光需要からサービス業の業況感が改善した。また、電子部品、自動車関連の堅調な生産・輸出や、建設・設備投資の底堅い推移から、関連商品を扱う卸売業の業況改善を指摘する声が聞かれた。他方、消費者の節約志向や人手不足の影響拡大、原材料・燃料の値上りが依然、中小企業のマインドに影響を及ぼしており、業況改善に向けた動きは力強さを欠いている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲15.9（今月比+0.3ポイント）とほぼ横ばいを見込む。インバウンドを含む消費や輸出の拡大に期待する声が聞かれる。他方、消費の一段の悪化、人手不足の影響拡大、原材料・燃料価格の上昇、地政学的リスクなど、先行きの懸念材料を指摘する声は多く、中小企業の業況感は足踏みが続く見通し。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2015年5月以降)



2017年度の設備投資の動向

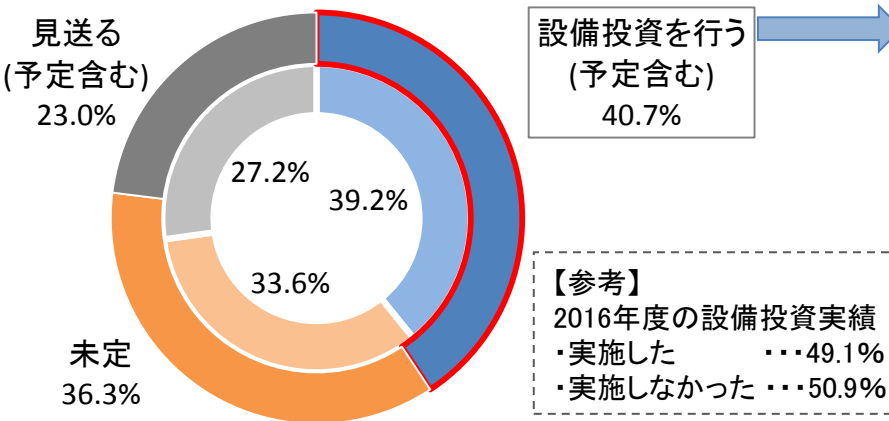
- ▶ 2017年度に設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は、40.7%と、前年同月と比べ、1.5ポイント増加。他方、「未定」は36.3%と2.7ポイント増加し、「見送る」は23.0%と4.2ポイント減少
- ▶ 2016年度と比較した2017年の設備投資の規模は、「拡大」が28.3%とほぼ横ばい、「同水準」が48.0%と6.3ポイント増加し、「縮小」が23.7%と7.0ポイント減少
- ▶ 国内の新規設備投資・既存設備改修の目的は、「能力増強」が67.4%、「省力化・合理化」が50.2%

[中小企業の声]

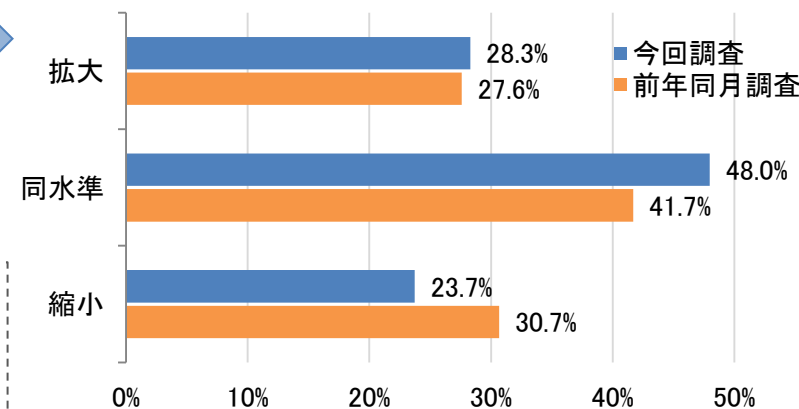
- ▶ 年末年始に客室の改装工事を実施。併せて、朝食メニューの見直しや体験教室の充実などサービス面も向上させ、宿泊料金を値上げした。観光シーズンを迎えた5月は客足が増加し、安売り競争からの脱却につながった (会津喜多方 旅館)
- ▶ 人手不足に加え、不漁により水産物の調達や価格が安定せず、採算は悪化している。収益改善のため省力化を目的とした設備投資を実施予定 (土佐清水 水産食品製造)
- ▶ ドライバー不足の中で輸送能力を引き上げるため大型トラックへの買換えを検討している。しかし、大型トラックは高機能化により価格が上昇しており、買換えによる売上の増加と購入資金の負担について慎重な検討が必要 (静岡 運送業)

◆2017年度の設備投資の計画

※円グラフの外側が2017年5月調査、内側は前年同月調査



<2016年度と比較した2017年度の設備投資の規模>



<2017年度の設備投資の目的>

※国内新規設備投資・既存設備改修(設備性能の向上を伴う)を行う企業が回答

